

DOI-E10684

CX2100 / 200 取扱説明書

注 意

ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

お読みになった後は、いつでもすぐに見ることができる場所へ保管してください。

ご注意

1. 本書の内容の一部または全部を無断転載、複写およびいかなる方法による複製も禁止します。
2. 本書の内容に関し予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容は万全を期して作成しましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きの点がございましたら、日本電気株式会社までご連絡ください。
4. 本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、3項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予め御了承ください。
5. 許可なく改造、変更を行った場合、動作の保証は致しかねます。
6. 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込みでの使用は意図されておりません。
これらの設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、当社製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害等が生じても、当社ではいかなる責任も負いかねます。
設備や機器、制御システムなどにおいては、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
7. 本書について日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことができません。
8. 万一、本書に乱丁、落丁がありましたらお取り替え致します。

廃棄方法について

本装置を廃棄するとき、地方自治体の条例に従って処理してください。詳しくは、各地方自治体へお問い合わせください。

本装置はごみ廃棄場で処分されるごみの中に捨てないでください。火中に投げると破裂するおそれがあります。

輸出に関する注意事項

本装置が外国為替および外国貿易管理法の規定により、戦略物資等に該当する場合には、日本国外に輸出する際に、日本国政府の許可が必要です。

本装置(ソフトウェア含む)は日本国内仕様であり、外国の規制等には準拠しておりません。本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本装置に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っておりません。

情報処理装置等電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。本書に従って正しい取り扱いをしてください。

リバースエンジニアリングに関する禁止事項

本装置のソフトウェアに対して、逆アセンブル、逆コンパイルなどのリバースエンジニアリングは禁止されています。

使用上の注意事項

製品を安全に正しくお使いいただき、お客様やほかの人々への危害や、財産への損害を未然防止するために、守っていただきたい事項を示しています。

本書で使用している表示と図記号の意味は次の通りです。
本記号の内容をよく理解してから、本書をお読みください。また、お読みになった後は、いつでもすぐに見ることができる場所へ保管し、必要に応じてお読みください。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害が想定される内容を示しています。

	誤った取り扱いをすると、発火の可能性が想定されることを示しています。
	誤った取り扱いをすると、感電の可能性が想定されることを示しています。
	誤った取り扱いをすると、けがを負う可能性が想定されることを示しています。
	安全のため、水場での機器の使用を禁止することを示しています。
	安全のため、機器の分解・改造を禁止することを示しています。
	安全のため、レーザ光線を覗き込んだり、光学機器で直接見ないように指示するものです。
	安全のため、ACアダプタを必ずACコンセントから抜くように指示するものです。

< 電源に関するご注意 >

 警告	
 	<p>本装置の電源は、AC100V\pm10V(50/60Hz)の電源以外では、絶対に使用しないでください。</p> <p>異なる電圧で使用すると、火災、感電の原因となります。</p>
 	<p>ACアダプタは、ほこりが付着していないことを確認してからACコンセントへ確実に差し込んでください。また、ACアダプタとACコンセントの間にはほこりがたまりやすいため、半年か一年に一回は、ACアダプタをACコンセントから抜いて点検、掃除をしてください。</p> <p>ほこりは火災、感電の原因となります。</p>
 	<p>ACアダプタの接続は、テーブルタップや分岐コンセント、分岐ソケットを使用したタコ足配線にしないでください。</p> <p>ACコンセントが過熱し、火災、感電の原因となります。</p>
 	<p>電源コードを加工したり、傷つけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。</p> <p>コードの破損は火災、感電の原因となります。</p>
 	<p>電源コードの上にものを載せないでください。</p> <p>コードの破損は火災、感電の原因となります。</p>

 注意	
	<p>ACアダプタを抜くときは、必ずACアダプタを持って抜いてください。 コードの損傷は火災、感電の原因となります。</p>
	<p>ぬれた手でACアダプタをACコンセントに抜き差ししないでください。 感電の原因となることがあります。</p>
	<p>ACアダプタをACコンセントに接続してあるときは、ぬれた手で本体に触れないでください。 感電の原因となります。</p>
	<p>本装置をご使用にならないときは、安全のため必ずACアダプタをACコンセントから抜いてください。</p>

< 保管および使用環境に関するご注意 >

 警告	
 	<p>本装置の上や近くに花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など、液体の入った容器を置かないでください。</p> <p>液体が本装置にこぼれたり、本装置の中に入った場合、火災、感電、故障の原因となります。</p>
  	<p>本装置をふる場や加湿器のそばなど、湿度の高い(湿度80%を超える)ところでは使用しないでください。</p> <p>火災、感電の原因となります。</p>

 注意	
 	<p>本装置や電源コードを火気やストーブなどの熱器具に近づけないでください。</p> <p>キャビネットや電源コードの被覆が溶けて、火災、感電、故障の原因となることがあります。</p>
 	<p>本装置を油飛びや湯気があたるような場所、ほこりの多い場所に置かないでください。</p> <p>火災、感電、故障の原因となることがあります。</p>

	<p>本装置を直射日光の当たるところや、温度の高い(温度40 を超える)ところに置かないでください。</p> <p>内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。</p>
	<p>本装置を不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた場所など)に置かないでください。</p> <p>落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。</p>
	<p>本装置を振動、衝撃の多い場所に置かないでください。</p> <p>落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。</p>
<p>本装置をラジオやテレビなどのすぐそばで使用すると、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。また、強い磁界を発生する装置が近くにある場合、逆に本装置に雑音が入ることがあります。このような場合は、ラジオやテレビから本装置を離してから使用してください。</p>	

< 禁止事項 >

 警告	
 	<p>当社保守作業者以外は、本装置内部の点検、調整、清掃、修理は、危険ですから絶対にしないでください。</p> <p>本装置の内部には電圧の高い部分があるため、当社保守作業者以外の方が、本装置内部の点検などを行った場合、火災、感電を引き起こす危険があります。 本装置内部の点検、調整、清掃、修理は、担当のサービスセンターに依頼してください。</p>
  	<p>当社保守作業者以外は、本装置内部の分解・改造は絶対にしないでください。</p> <p>火災、感電、故障の原因となります。</p>
 	<p>本装置に水などの液体が入ったり、本装置をぬらしたりしないようご注意ください。</p> <p>火災、感電、故障の原因となります。</p>
	<p>光コードの先端部は光ビームが発生しています。光コードの先端を光学機器で直接覗き込まないでください。</p> <p>覗き込んだ場合、目を傷める危険性があります。 万一、覗き込んだ場合は、ただちに医師の診察をお受けください。</p>
	<p>光コードの先端部は光ビームが発生しています。光コードの先端を直接覗き込まないでください。</p> <p>覗き込んだ場合、目を傷める危険性があります。 万一、覗き込んだ場合は、ただちに医師の診察をお受けください。</p>

 注意	
	本装置の隙間から、内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を入れないでください。
	そのまま使用すると火災、感電、故障の原因となることがあります。
	本装置の上にものを載せたり、本装置に乗ったりしないでください。 特に、小さなお子様のいるご家庭では、ご注意ください。 壊れたりしてけがの原因となることがあります。

< 異常時およびトラブルに関するご注意 >

 警告	
  	<p>万一、本装置を落としたり、破損したりした場合、ACアダプタをACコンセントから抜いて、担当のサービスセンターにご連絡ください。</p> <p>そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因となります。</p>
  	<p>万一、本装置の内部に水などの液体が入った場合は、ACアダプタをACコンセントから抜いて、担当のサービスセンターにご連絡ください。</p> <p>そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因となります。</p>
  	<p>万一、異物が本装置の内部に入った場合は、ACアダプタをACコンセントから抜いて、担当のサービスセンターにご連絡ください。</p> <p>そのまま使用すると火災、感電、故障の原因となります。</p>
  	<p>電源コードが傷んだときは、すぐにACアダプタをACコンセントから抜いて、担当のサービスセンターに修理を依頼してください。</p> <p>そのまま使用すると、火災、感電の原因となります。</p>

	<p>万一、本装置から煙が出る、変な臭いがするなどの異常状態が発生した場合は、すぐにACアダプタをACコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認して、担当のサービスセンターに修理をご依頼ください。</p> <p>そのまま使用すると、火災、感電の原因となります。</p>
---	--

 注意	
	<p>落雷のおそれがある場合は、本装置のACアダプタをACコンセントから抜いてご使用をお控えください。</p> <p>落雷時に、火災、感電の原因となることがあります。</p>
	<p>雷が鳴っているときは、ACアダプタに触れたり、機器の接続をしたりしないでください。</p> <p>感電の原因となることがあります。</p>

<お手入れに関するご注意>

 注意	
	本装置のお手入れをする際は、安全のため必ずACアダプタをACコンセントから抜いてください。
<p>ベンジン、シンナーなど(揮発性のもの)の薬品を用いてふいたりすると、変形や変色の原因になることがあります。 また、殺虫剤などをかけた場合も、変形や変色の原因になることがありますので、注意してください。</p>	

目次

使用上の注意事項.....	1
1. 概説.....	12
1.1. 概要.....	12
1.2. 構成.....	12
2. 主要諸元.....	13
3. 取扱方法.....	14
3.1. 外線接続.....	14
3.2. スイッチの説明.....	23
3.3. ランプ説明.....	25
4. 添付品.....	26
5. 設置.....	27
5.1. 壁掛け設置.....	28
5.2. 縦置き設置.....	29
6. 保守.....	30
6.1. 使用上の注意.....	31
6.2. トラブルシューティング.....	32
7. 光コネクタの取り扱い.....	33
7.1. 光コネクタの取り扱い.....	33
7.2. 光ケーブルの取り扱い.....	35
付録1. CX2100/200 概観図.....	36

1. 概説

1.1. 概要

本装置(CX2100/200)は、10BASE-T/100BASE-TXのイーサネット信号を光ファイバケーブルで延長する装置です。

また、光出力レベルの違いにより、下記の3品種存在します。詳細は、2章の主要諸元を参照願います。

- ・CX2100/200/S
- ・CX2100/200/A
- ・CX2100/200/B

1.2. 構成

本装置に関連する製品の品名と数量を示します。

構成品名	数量	記事
CX2100/200装置 ¹	1個	本体
据付用品 ²	1式	添付品
ユーザマニュアル	1冊	

¹: ACアダプタは本体に括り付け

²: 据付用品は、縦置き台と木ねじ

2. 主要諸元

表 2-1 CX2100/200 主要諸元

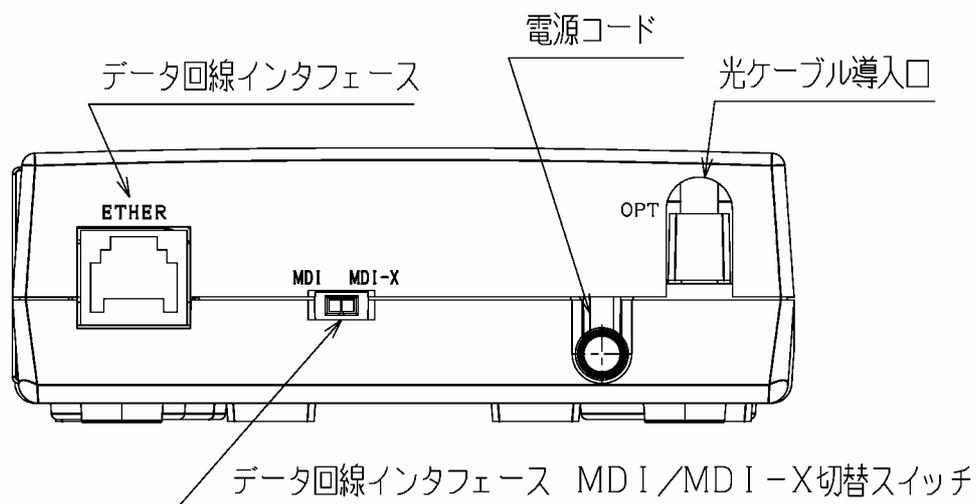
項目		CX2100/200/S	CX2100/200/A	CX2100/200/B
データ 回線 インタ フェース	ポート数	1		
	インタフェース	10BASE-T/100BASE-TX		
	速度	10Mbit/s(半二重/全二重)、100Mbit/s(半二重/全二重)		
	対応ケーブル	STP, UTP(カテゴリ5)		
	コネクタ	RJ-45コネクタ		
光 データ 回線 インタ フェース	ポート数	1		
	インタフェース	100BASE-FX		
	光出力レベル	-14 ~ -8dBm	-9 ~ -3dBm	-5 ~ 0dBm
	光受信レベル	-30 ~ -8dBm	-30 ~ -3dBm	-31 ~ -3dBm
	消光比	8.2dB以上	10dB以上	10dB以上
	送信/受信波長	1260 ~ 1360nm / 1480 ~ 1580nm		
	対応ケーブル	一心シングルモード光ファイバケーブル		
	コネクタ	SCコネクタ		
ランプ表示		TEST (橙) : 回線試験時に点灯します LINK FX (緑) : 光データ回線のリンク確立時に点灯します DUPLEX (緑) : データ回線が全二重の時に点灯します SPEED (緑) : データ回線が100Mの時に点灯します DATA (緑) : データ回線にてデータ通信が行なわれている時に点滅します。 LINK TX (緑) : データ回線のリンク確立時に点灯します POWER (緑) : 電源が正常に入力されている時に点灯します		
スイッチ		MDI/MDI-X : MDI/MDI-X切替 AUTO : オートネゴシエーション機能有効/無効切替 SPEED : オートネゴシエーション機能無効時の速度設定切替 DUPLEX : オートネゴシエーション機能無効時の通信方式切替		
使用電源		AC100V ± 10V (50/60Hz)		
最大消費電力		12VA		
質量		350g以下(本体部のみ)		
寸法		118(W) × 39(H) × 165(D) mm(¹)		
設置方法		卓上、壁掛けまたは、縦置き		
環境 条件	温度	0 ~ 40		
	相対湿度	30 ~ 80%(ただし結露しないこと)		

¹: ACアダプタおよび突起物を除く寸法です。

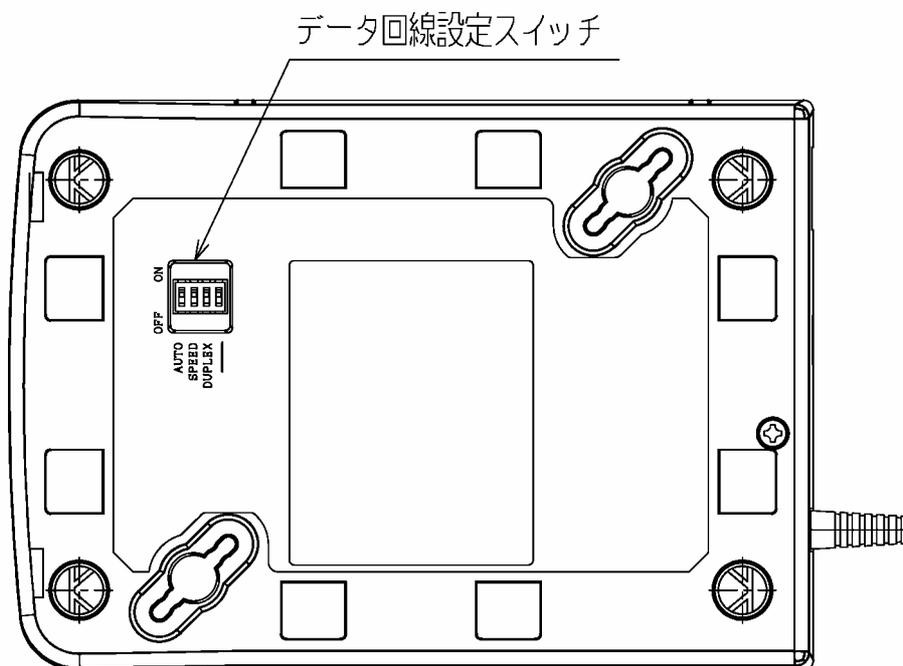
3. 取扱方法

3.1. 外線接続

以下に本装置の背面図、底面図を示します。



装置背面



装置底面

図 3-1 概観図

□ 光ケーブルの接続

光ケーブルの固定方法は金属金具によるテンションメンバー固定と樹脂製部品での固定の2通りの方法が可能です。両方共、カバーの取り外し方法は以下の手順となります。なお、光ケーブルはシングルモードファイバをお使いください。

カバー取り外し方法を図3 - 2に示します。

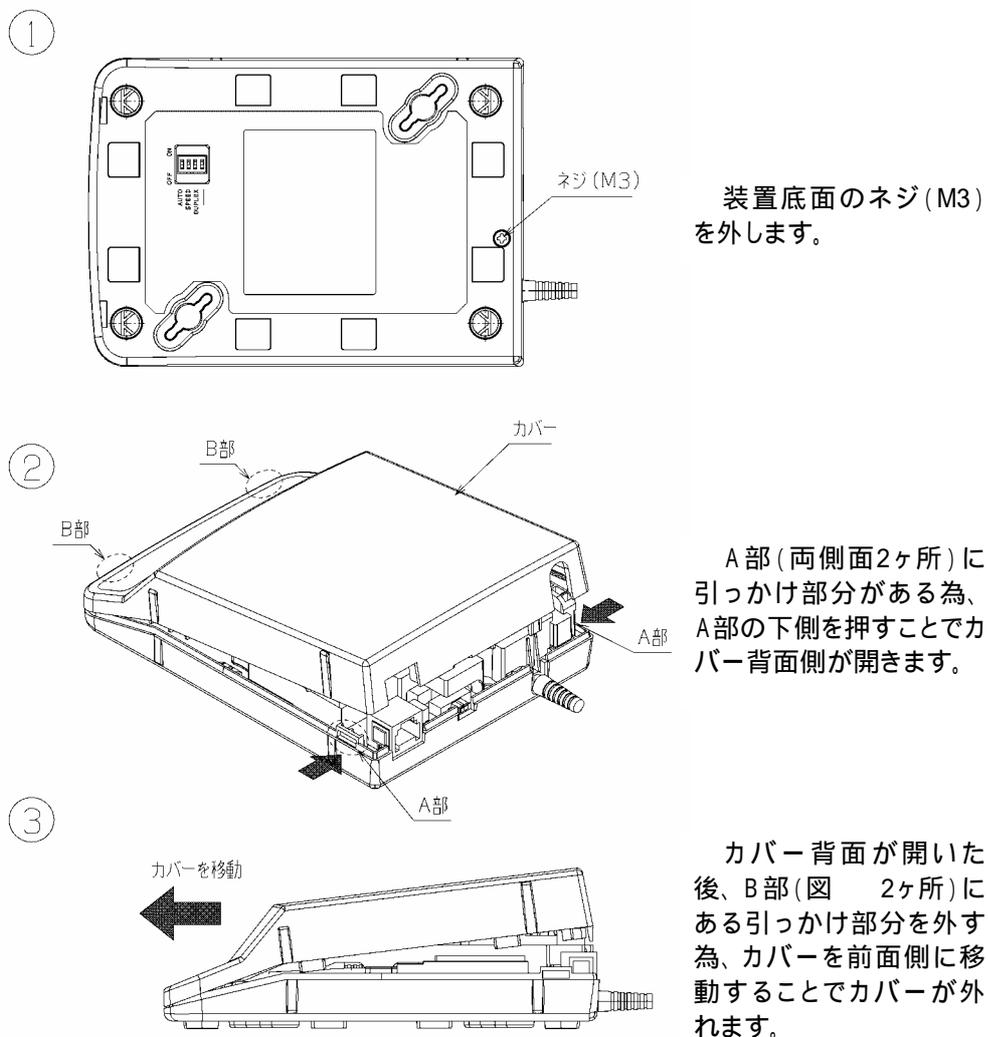


図 3-2 カバーの開け方

SCプラグ付光ケーブルを準備し、【引き込んだ光ケーブルとメカニカルスプライスにて接続してから、】* SCプラグ付光ケーブルのSCプラグを、本装置のカバー内のSCコネクタに接続します。接続の際、SCプラグ先端部の白いラインがSCコネクタ内に隠れるまで差し込んでください。しっかりSCプラグを挿入しないと、受光レベルが不安定になったり振動でSCプラグが抜けるなど運用に支障をきたします。

*:メカニカルスプライスを使用する場合

次に、余長処理の方法を説明します。なお、光ケーブルを曲げて収容する際、曲率半径が30mmを下まわらないように注意してください。

1) 金属金具によるテンションメンバー固定方法

樹脂製固定部品を取り外します。

取り外した樹脂製固定部品は、なくさないように保管してください。

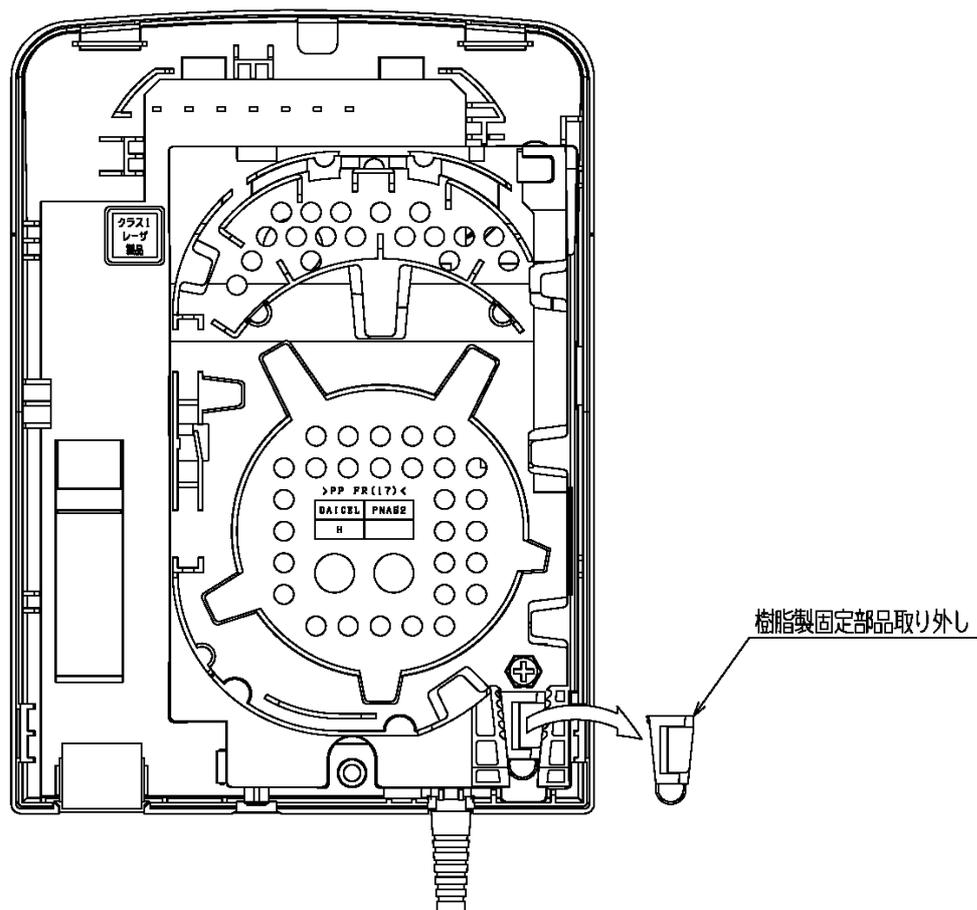


図 3-3 樹脂製固定部品の取り外し

図3 - 4に示すように余長処理を行います。光ケーブルの被服の剥きしろは、テンションメンバー固定金具から12mm～20mmとしてください。なお、曲率半径が30mmを下まわらないように注意してください。なお、余長処理後は、図3 - 2に示す逆の手順でカバーを取り付けてください。

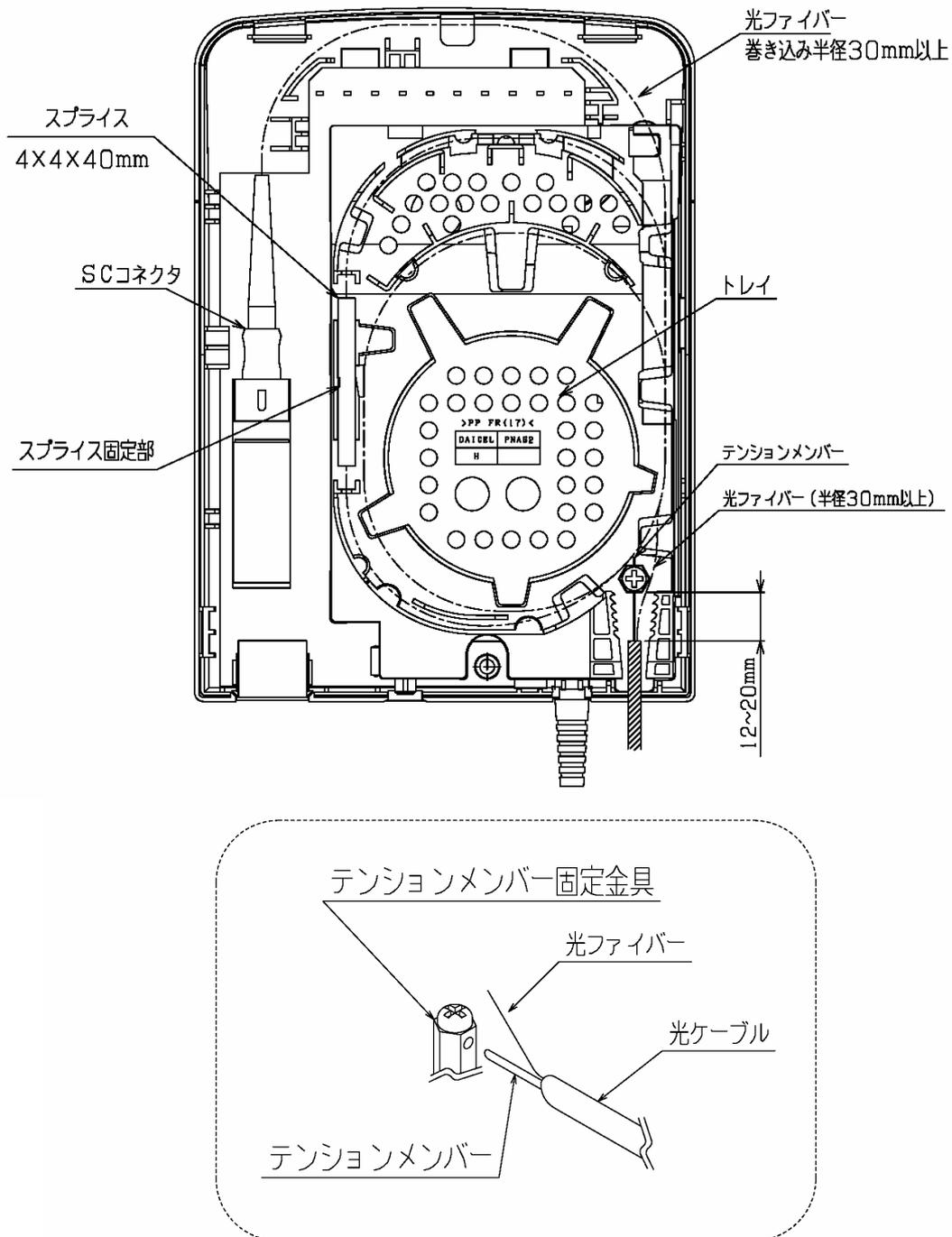


図 3-4 光ファイバ余長処理

2)樹脂製部品による固定方法

図3 - 3に示すように一度樹脂製固定部品を取り外します。

図3 - 5に示すようにトレイの側面を軽く押して持ち上げ、トレイを外します。

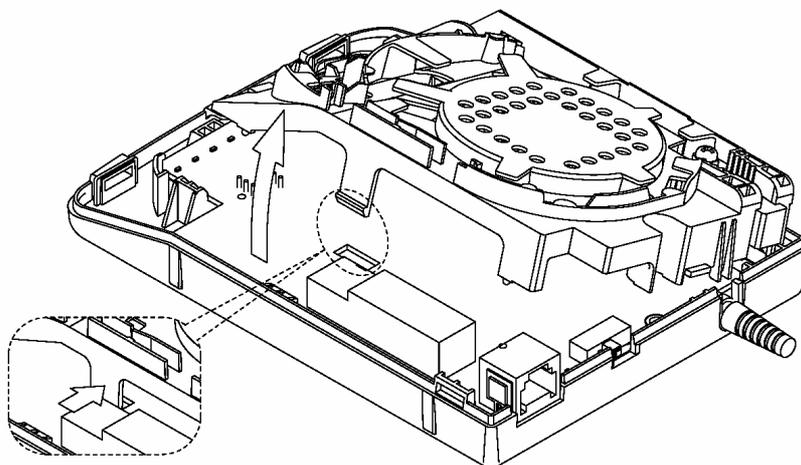


図3 - 5 トレイの外し方

トレイに取り付けられている金属金具を外します。
取り外した金属金具は、なくさないように保管してください。

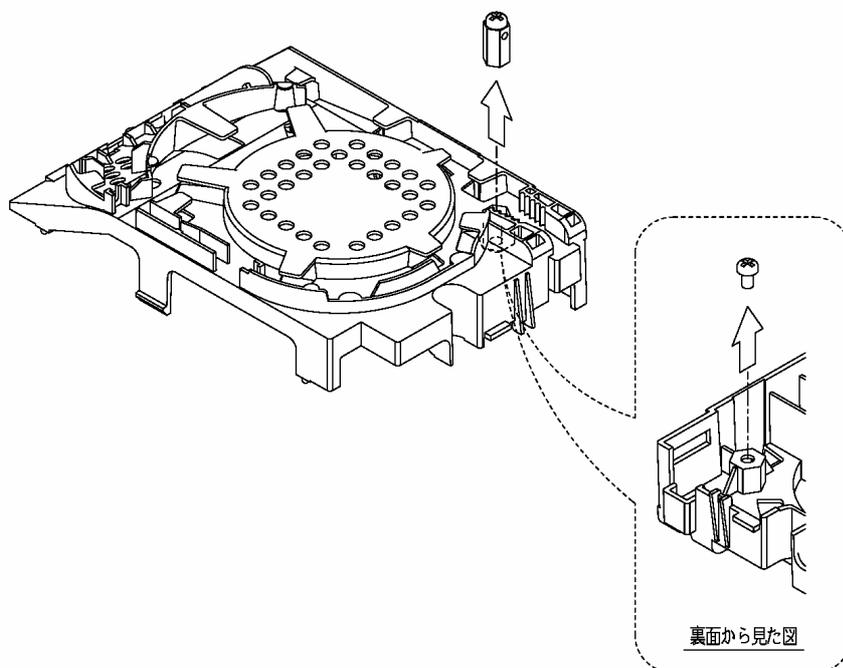


図3 - 6 金属金具の外し方

トレイを元の通りに取り付けます。a, bの爪部に取り付け、cに示す基盤の穴に爪を引っ掛けます。この時、d, eの突起が基盤の穴に挿入されることを確認してください。

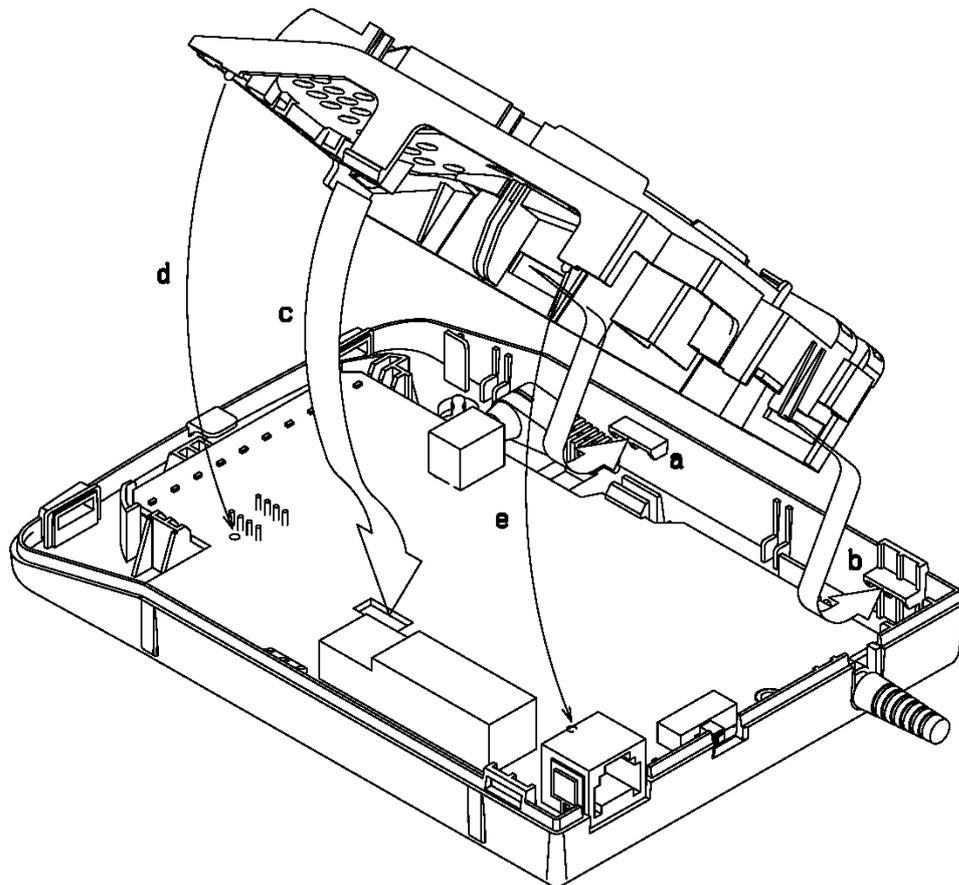


図 3-7 トレイの取り付け方法

下図のように余長を行い、図3 - 2に示す逆の手順でカバーを取り付けてください。

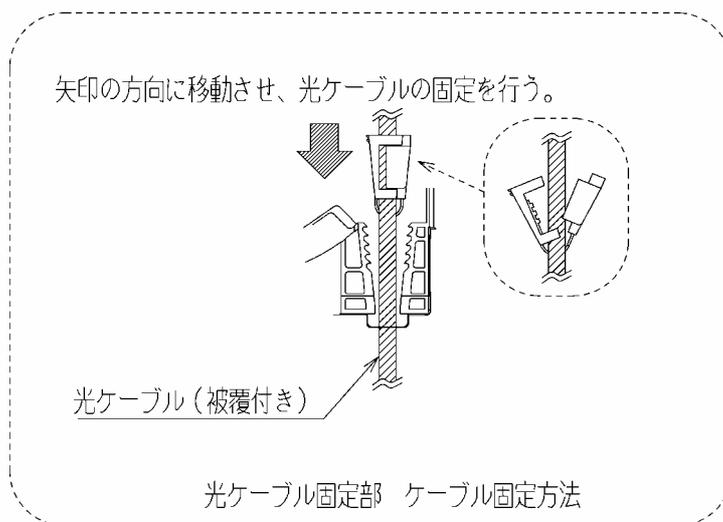
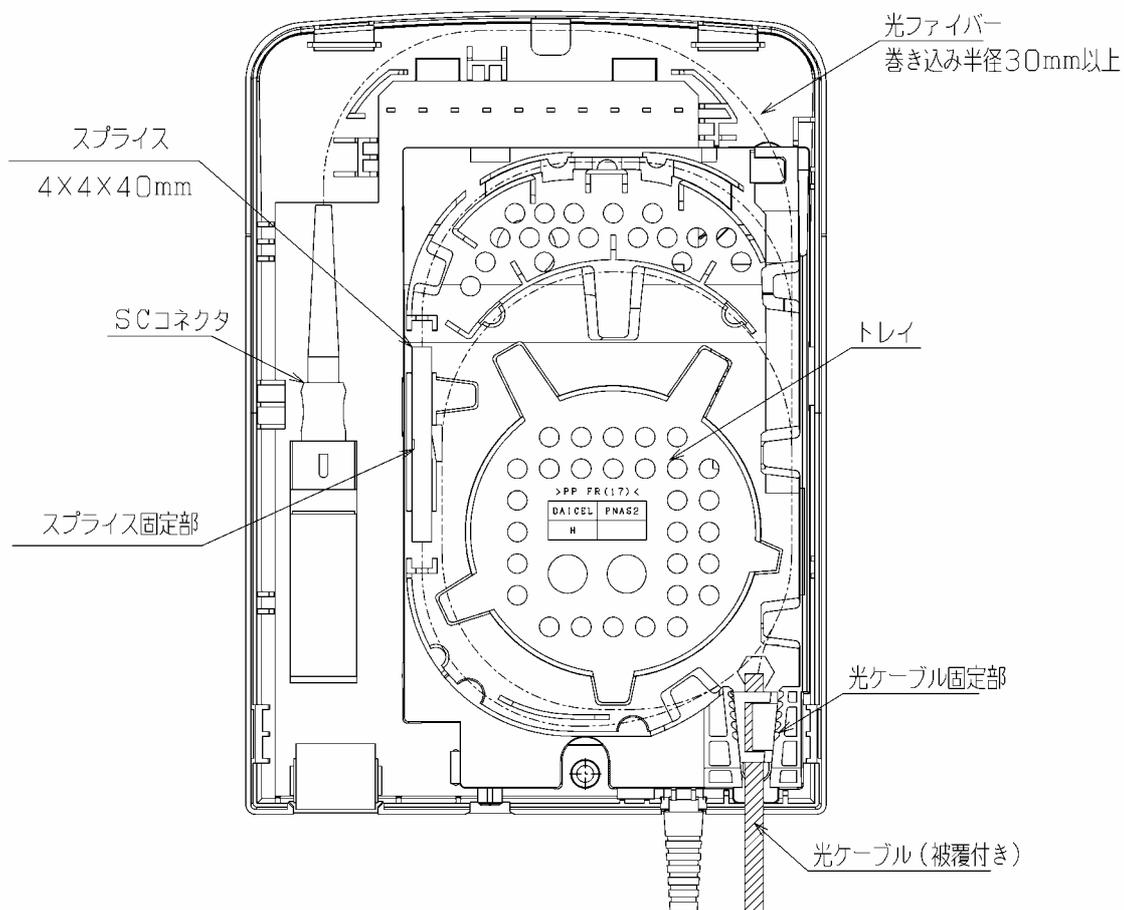


図 3-8 光ファイバ余長処理

警告

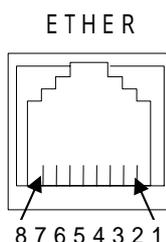
装置に電源が投入されている間は、『OPT』コネクタの部分に裸眼または光学機等を介してのぞかないでください。目に障害が発生するおそれがあります。

注意

『OPT』コネクタの部分には最大受光レベル以上の光信号が入力されないように、運用前に必ず光の受光レベル測定をおこなってください。受光レベルが最大受光レベルを上回る場合は、必ず光減衰器等を挿入して最大受光レベル以下に調整してください。最大受光レベル以上の光信号が入力された場合は、受光器が壊れるおそれがあります。

□ UTPケーブル等の接続

UTPケーブル等を『ETHER』コネクタに接続します。接続の際、プラグの爪が「カチッ」とロックされたことを確認してください。しっかりプラグを挿入しないと、接触不良によるデータエラーが発生したり振動でプラグが抜けるなど運用に支障をきたします。また、プラグ挿抜の際は無理な力を加えずまっすぐに抜き差ししてください。



ピン配置 (MDI - X設定時)			ピン配置 (MDI設定時)		
ピン番号	信号名	備考	ピン番号	信号名	備考
1	RD+	受信データ+	1	TD+	送信データ+
2	RD-	受信データ-	2	TD-	送信データ-
3	TD+	送信データ+	3	RD+	受信データ+
4	-	未使用	4	-	未使用
5	-	未使用	5	-	未使用
6	TD-	送信データ-	6	RD-	受信データ-
7	-	未使用	7	-	未使用
8	-	未使用	8	-	未使用

壁掛け設置されている状態でUTPケーブル等の接続等を行う際には、落下すると危険ですので必ず装置本体を手で支えながら行ってください。

ケーブルの接続図を下図に示します。接続する装置及び接続に使用するケーブルの仕様を確認の上、装置背面のMDI / MDI-Xスイッチを設定してください。

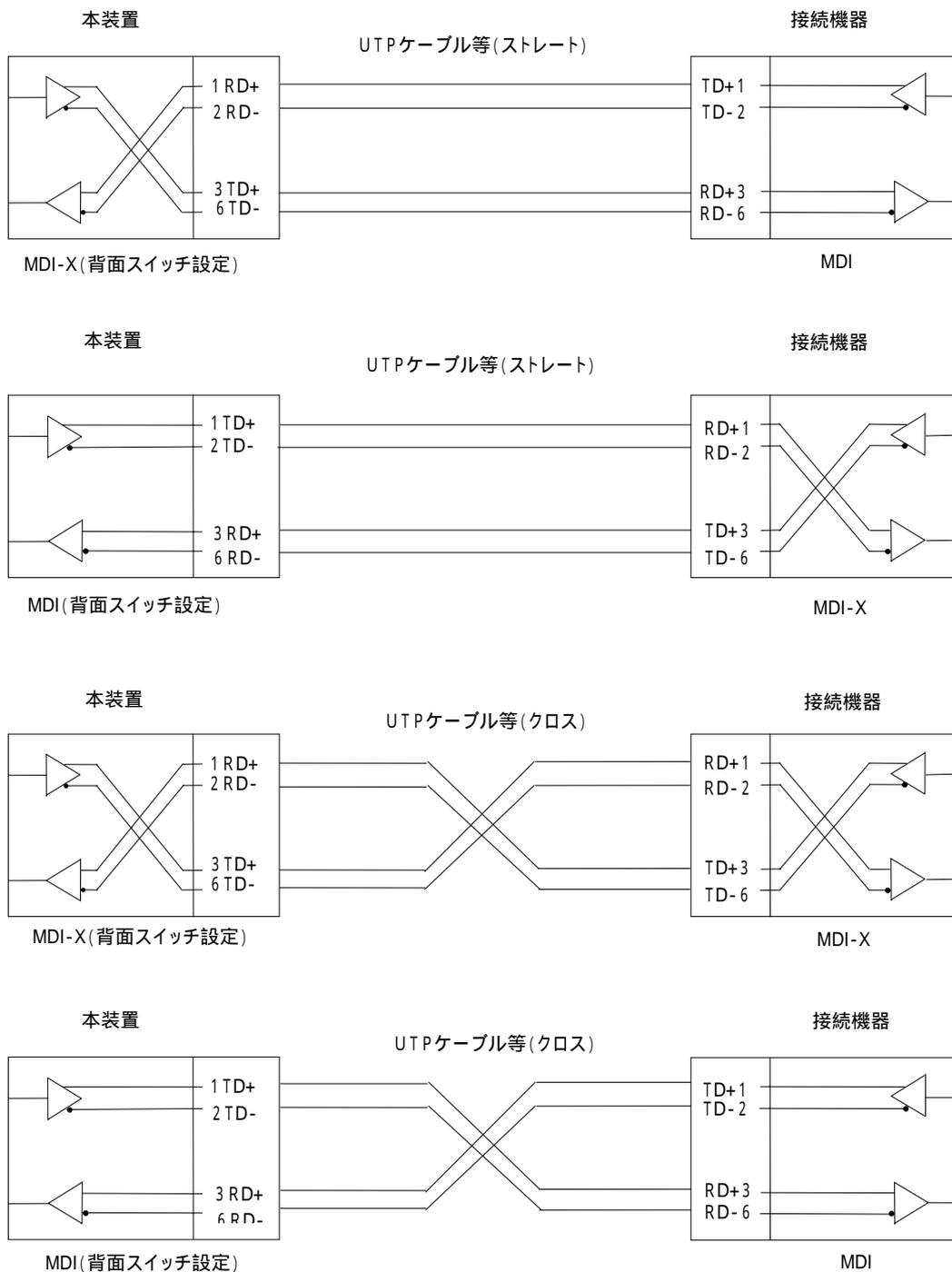


図3 - 9 ケーブル接続図

3.2. スイッチの説明

本装置には、次のスイッチがあります。

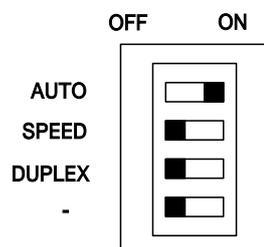
表 3-1 スイッチ一覧

表示	位置	名称	機能
MDI/MDI-X	装置背面	データ回線インタフェースMDI/MDI-X切替スイッチ	データ回線インタフェースの送・受信信号のピン配置を入れ替えることができます。
AUTO	装置底面	データ回線設定スイッチ	データ回線インタフェースのオートネゴシエーション機能を有効にするか無効にするかを設定します。
SPEED			データ回線インタフェースの通信速度を設定します。
DUPLEX			データ回線インタフェースの通信方式を設定します。

- データ回線インタフェースMDI/MDI-X切替スイッチ(装置背面)

お客様が使用される端末機器の種類および使用するUTPケーブル等(クロス/ストレート)に合わせてスイッチを設定してください。出荷時設定は、MDI-Xとなっております。

- データ回線設定スイッチ(装置底面)



本装置のデータ回線インタフェースの動作モードを設定するためのスイッチです。

表 3-2 データ回線設定スイッチ機能一覧

No.	1	2	3	4
スイッチ	AUTO	SPEED	DUPLEX	未使用
ON	有効	100M	全二重	
OFF	無効	10M	半二重	

太線は出荷時設定です。

「未使用」スイッチはOFFでご使用ください。

Ⓞ スイッチの変更は、必ずACアダプタをコンセントから抜くなどして、電源が入ってない状態にし、UTPケーブル等を外した状態でおこなってください。

1) AUTO

データ回線インタフェースのオートネゴシエーション機能を有効にするか無効にするかを設定します。

- ON : オートネゴシエーション機能を有効にします。
(データ回線インタフェースに接続される装置がオートネゴシエーション機能有効に設定されている場合)
- OFF: オートネゴシエーション機能を無効にします。
(データ回線インタフェースに接続される装置がオートネゴシエーション機能無効に設定されている場合)

⊙ 『AUTO』スイッチの設定を間違えると正常に通信できません。必ず接続先装置がオートネゴシエーション機能をサポートしているか確認してください。

2) SPEED

データ回線インタフェースの通信速度を設定します。

- ON : 通信速度を100Mbit/s に設定します。
- OFF: 通信速度を10Mbit/s に設定します。

3) DUPLEX

データ回線インタフェースの通信方式を設定します。

- ON : 通信方式を全二重に設定します。
- OFF: 通信方式を半二重に設定します。

⊙ 『SPEED』や『DUPLEX』の設定を間違えると正常に通信できません。『SPEED』, 『DUPLEX』の設定は『AUTO』がOFFのときに有効になります。

3.3. ランプ説明

装置前面にランプがあり、装置の動作状態を示します。

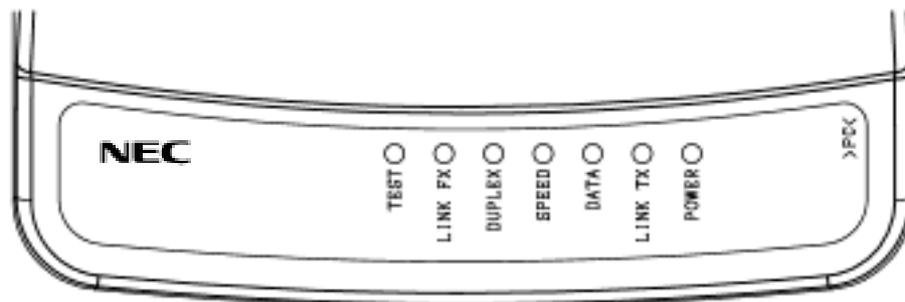


図 3-10 ランプ表示部

装置前面に次に示すランプがあり、装置の動作状態を示します。

表 3-3 ランプ機能一覧

表示	点灯色	機能
TEST	橙	回線試験時に点灯します
LINK FX	緑	光データ回線のリンク確立時に点灯します
DUPLEX	緑	データ回線が全二重の時に点灯します
SPEED	緑	データ回線が100Mの時に点灯します
DATA	緑	データ回線にてデータ通信が行なわれている時に点滅します
LINK TX	緑	データ回線のリンク確立時に点灯します
POWER	緑	電源が正常に入力されている時に点灯します

電源投入後約2秒間は、全てのランプが点灯状態となります。

4. 添付品

表 4-1に本装置の添付品を示します。

表 4-1 添付品一覧

品名	個数	備考
ユーザマニュアル	1冊	
据付用品	1式	縦置き台、木ネジ

5. 設置

本装置はお客様の設置環境に応じて、平置き設置、壁掛け設置、縦置き設置の3種類の設置方法を選択していただくことが可能です。

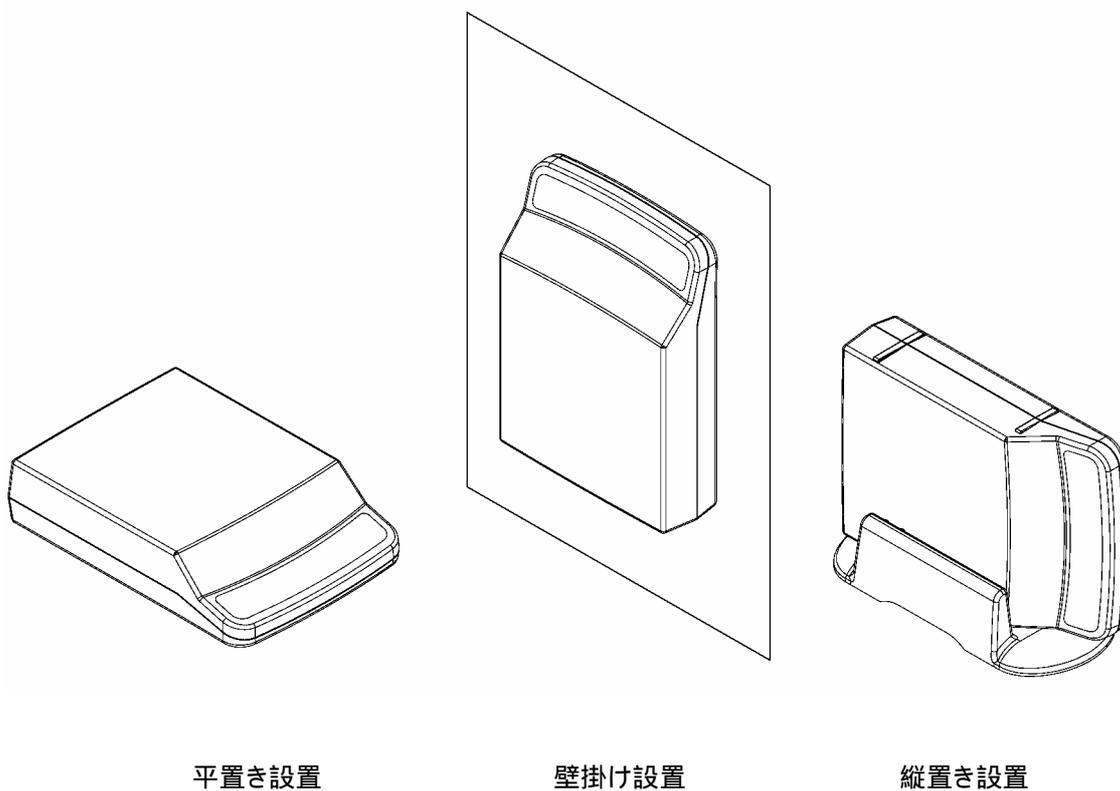


図 5-1 設置

5.1. 壁掛け設置

本装置を壁掛け設置でご使用になる場合は、添付品の木ネジを使用して壁に掛けてご使用ください。

壁掛け方法

装置を壁掛けする場合は、木ネジ(2本)を図5 - 3の寸法で壁に取り付け、木ネジを装置裏側の A 部穴(図5 - 2)に引っ掛け、装置を斜めに移動し壁掛けを行います。

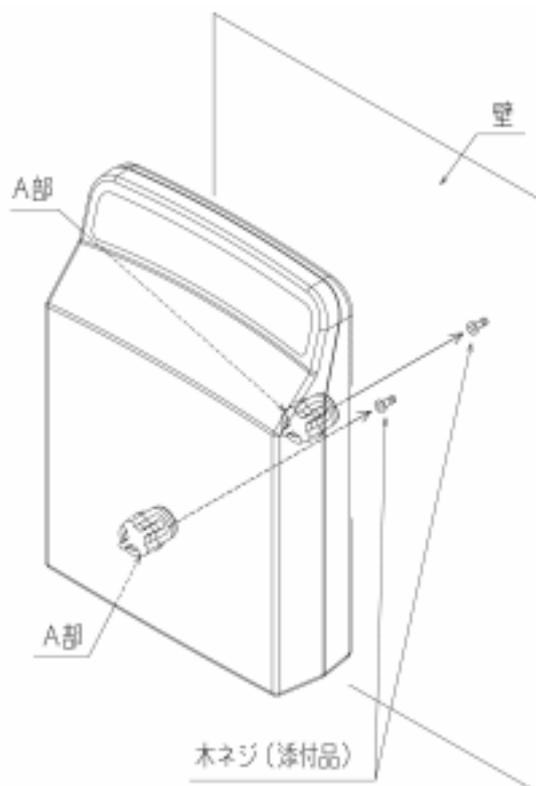


図 5-2

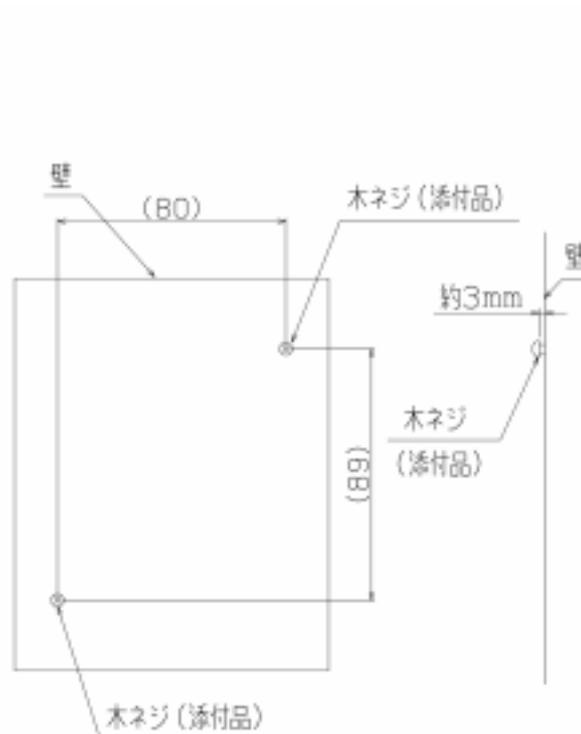


図 5-3

壁掛け時には落下すると危険ですので、大きな衝撃や振動等を与えないよう注意してください。
壁掛け設置されている状態でUTPケーブル等の接続等を行う際には、落下すると危険ですので必ず装置本体を手で支えながら行ってください。
本装置が落下すると危険ですので、ベニヤ板などのやわらかい壁への壁掛け設置は避け確実に取り付けられているか確認してください。

5.2. 縦置き設置

本装置を縦置き設置でご使用になる場合は、添付品の縦置き台をご使用ください。

縦置き設置方法

縦置き設置をする場合は、図5 - 4の点線の位置に装置と縦置き台を合わせ、装置を縦置き台に上から垂直に入れてください。装置の方向は、図5 - 5の様に2通りで設置可能です。

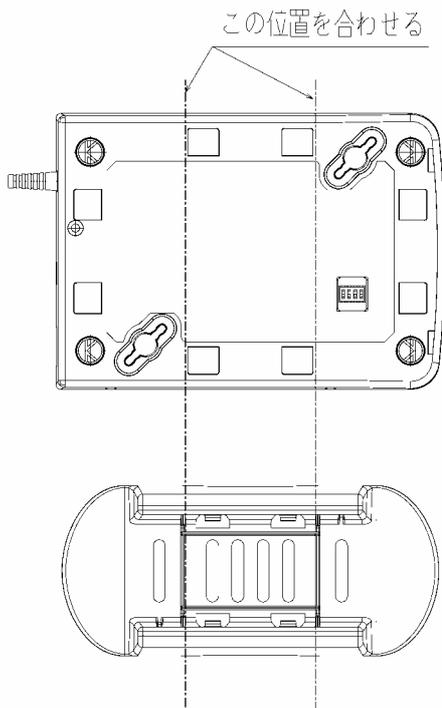


図 5-4

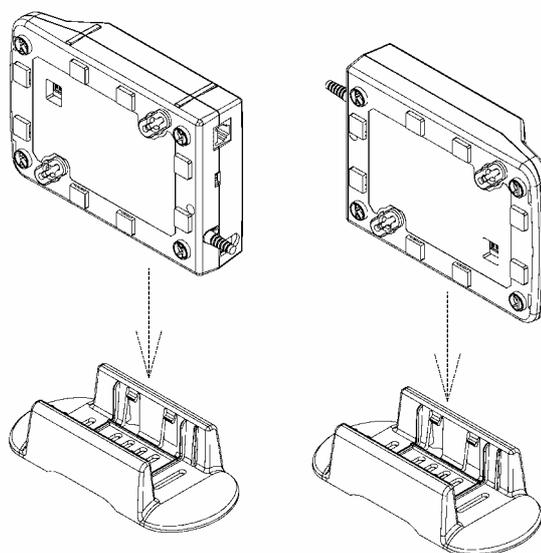


図 5-5

縦置き設置した場合を図5 - 6に示します。

装置と縦置き台を外す際、外しにくい場合は、図5 - 7の矢印の方向に縦置き台を開き装置を外してください。

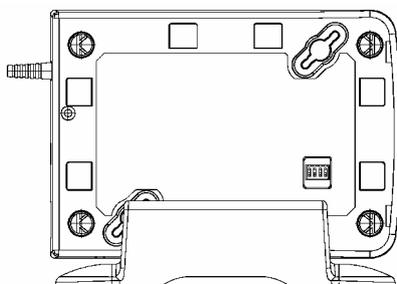


図 5-6

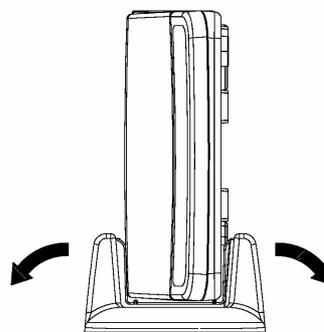


図 5-7

6. 保守

 警告	
 	<p>当社保守作業者以外は、本装置内部の点検、調整、清掃、修理は、危険ですから絶対にしないでください。</p> <p>本装置の内部には電圧の高い部分があるため、当社の保守作業者以外の方が、本装置内部の点検などを行った場合、火災、感電を引き起こす危険があります。</p> <p>本装置内部の点検、調整、清掃、修理は、担当のサービスセンターに依頼してください。</p>
  	<p>当社保守作業者以外は、本装置内部の分解・改造は絶対にしないでください。</p> <p>火災、感電、故障の原因となります。</p>

6.1. 使用上の注意

- (1) 本装置の内部調整箇所は、当社現調査業者、保守作業員、またはそれに準ずる者以外は手を触れないようにしてください。
- (2) スイッチ調整箇所は、必ず初期の現調時の設定通りに保ってください。1ヶ所変更しても動作に支障をきたす場合があります。万一変更が必要になった場合は、当社現調作業員または保守作業員にご連絡ください。
- (3) 本装置の上面、側面等に物を置いたり、積み重ねたりして密閉状態にならないよう設置してください。
- (4) 本装置の電源部は、定期保守が必要な部品を使用しています。電源部を安心して使用していただくためにオーバーホールをお勧めします。オーバーホール時期は、装置の稼働状況、環境条件により変化しますが5年目を目安としてください。
- (5) 本装置は、電源部にアルミ電解コンデンサを使用しています。アルミ電解コンデンサは、長時間通電せずに保管すると性能が低下します。長時間ご使用にならない場合でも、安定してご使用いただくために1年に2時間程度、電源をONにして通電してください。
- (6) ACアダプタをACコンセントに長い間差し込んだままの状態にしておくと、ACアダプタやACコンセントの絶縁物の表面にほこりや水分が付着します。付着したほこりや水分は導電路を形成し、絶縁物が劣化して火災に至る原因となることがあります(トラッキング現象)。ACコンセントの周りを常に清潔に保ち、ACアダプタがしっかりと差し込まれているか定期的に確認してください。

6.2. トラブルシューティング

次のような現象で困ったときは、故障と考える前に下記の内容をご確認ください。
確認していただいても現象が改善しない場合、および処置方法が不明な場合は、装置の故障が考えられます。ご面倒ですが、担当のサービスセンターまでご一報ください。

- (1) ACアダプタをコンセントにさしても電源が入らない。『POWER』ランプが点灯しない。
 - ・ ACコンセントに正しくAC100Vが供給されていますか？(停電・ブレーカOFF等で電源供給がストップしていませんか？)
 - ・ ACアダプタのプラグがACコンセントから浮いたりしていませんか？
- (2) UTPケーブル等を接続しても『LINK TX』ランプが正常に点灯しない。
 - ・ UTPケーブル等が『ETHER』コネクタにしっかり接続されていますか？(カチッとロック音がするまでプラグが差し込まれていますか？)
 - ・ 接続された機器の電源が入っていますか？
 - ・ 接続している機器のデータ回線インタフェースと、使っているUTPケーブル等の種類(ストレート/クロス)が合っていますか？(本装置は、ストレート/クロスのいずれのUTPケーブル等でもご使用いただけるように、MDI/MDI-Xを切り替える機能を持っております。装置背面のMDI/MDI-X切替スイッチを反対側に切り替えてみてください。3章取扱方法参照。)
 - ・ データ回線インタフェースの通信速度・通信方式などの設定(『AUTO』、『SPEED』、『DUPLEX』スイッチ)が接続している機器の端末の通信速度・通信方式設定と合っていますか？
- (3) 光ケーブルを接続しても『LINK FX』ランプが点灯しない。
 - ・ 光コネクタに光ケーブルのSCプラグがしっかりと差し込まれていますか？
 - ・ 光ケーブルのSCプラグの先端部分が汚れていませんか？
 - ・ 光ケーブルが折れたり傷つけられたりしていませんか？
 - ・ 光の受信レベルは適正ですか？
- (4) ランプの点灯状態は正常なのに通信できない。
 - ・ データ回線インタフェースに接続している機器のアプリケーションソフトの設定は正しいですか？

7. 光コネクタの取り扱い

警告



- ・光ケーブルのコネクタ先端部からは光ビームが発生しています。覗き込まないでください。
- ・覗き込んだ場合、目を傷める危険性があります。万一、覗き込んだ場合、ただちに医師の診察をお受けください。

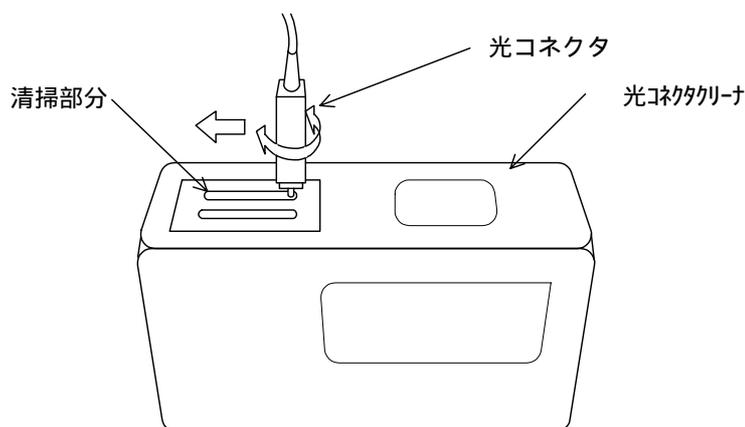
7.1. 光コネクタの取り扱い

光コネクタの汚れ等は、光の損失を増加させ、通信に影響を与える可能性があります。このため、設置時、および故障対応時には、光コネクタを接続する前に必ず清掃を行ってください。

また、接続されているコネクタが清掃済みの場合でも、いったん取り外して再度接続する場合には、必ず清掃してください。

光コネクタ端面の清掃状態を観察する場合には、信号光が出力されていないことを確認してから行ってください。

光ファイバプラグ側の清掃例を図 7-1に、CX2100/200に実装されている光コネクタの清掃例を図7-2に示します。



- ・光コネクタクリーナ等の清掃部分で光コネクタ先端を清掃してください。

図 7-1 光コネクタの清掃方法

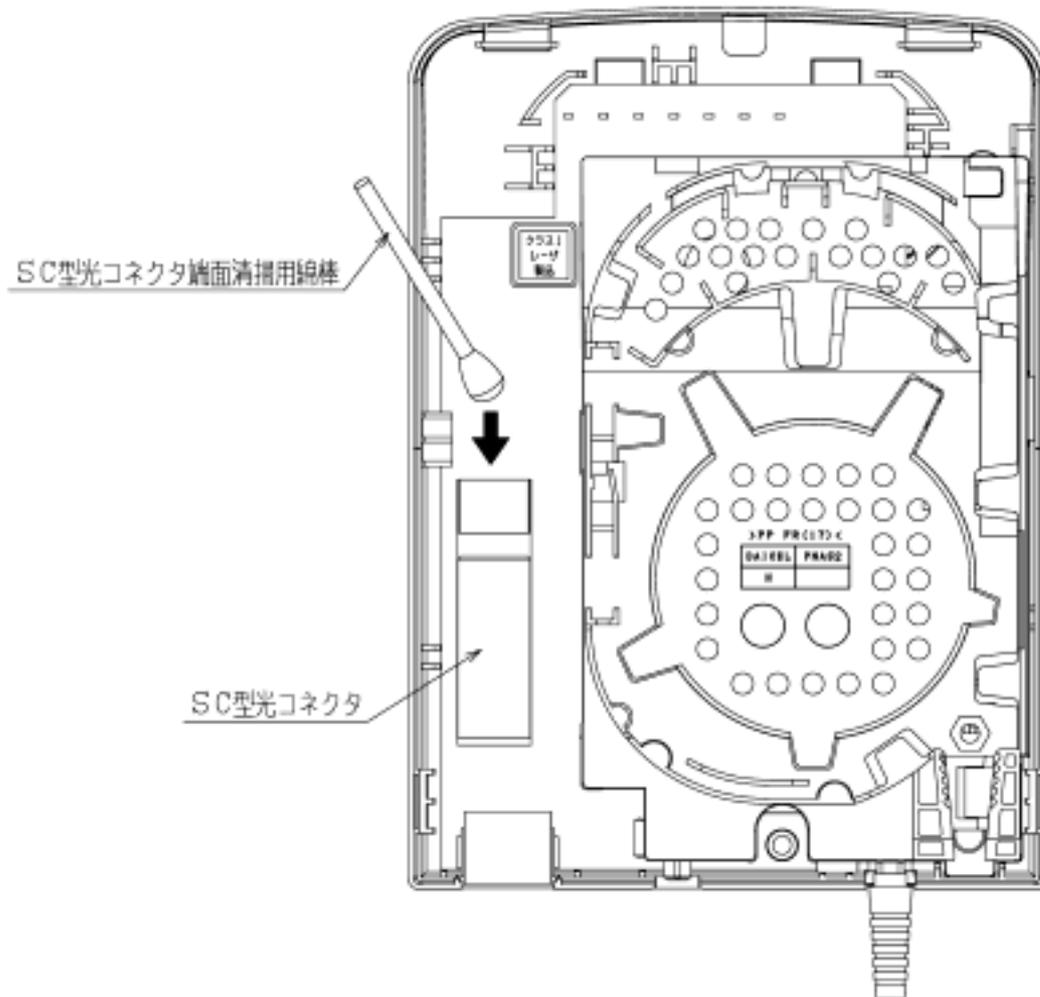


図 7-2 CX2100 / 200 光コネクタの清掃方法

- 清掃準備 ・清掃は、必ずSC型光コネクタ端面清掃用綿棒をご使用ください。
SC型光コネクタ端面清掃用綿棒以外の用具を使用した場合、光コネクタ端面にキズや繊維の残りが発生し、正常な接続ができない場合があります。
・綿棒の先端部分を点検し、異常(汚れ、異物付着等)がないことを必ず確認してください。
- 清掃方法 ご使用になられるSC型光コネクタ端面清掃用綿棒の取扱説明書に従って、清掃をお願いします。
以下は一例です。
・綿棒を光コネクタにまっすぐに挿入します。
・光コネクタ内部の端面に、軽く押し当てながら(加重200～300g)、必ず、右周り(時計回り)に回転(4～5回)としてください。
決して、左右両方に回転させての使用はしないでください。

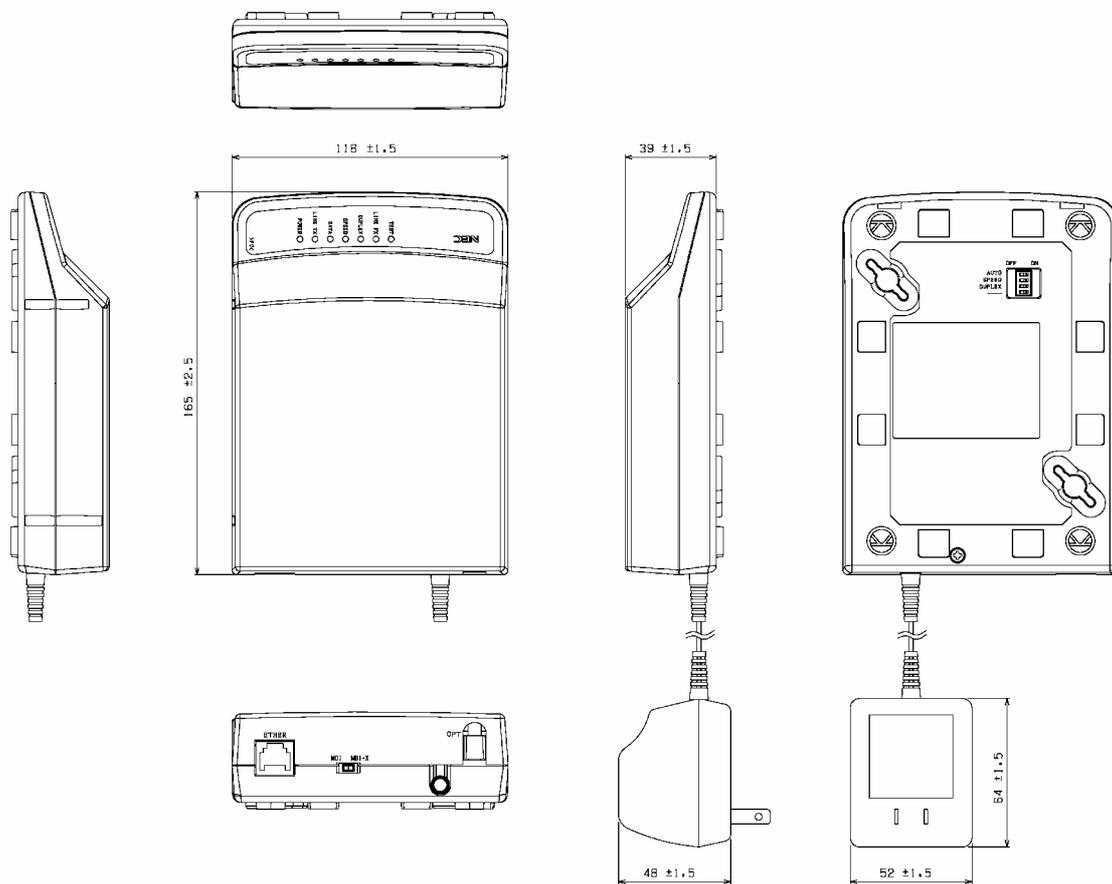
注1: 乱暴な取り扱いは絶対にしないでください。清掃以外での取り扱い等により、綿棒先端に異常を起こす場合があります。ご使用前に必ずご確認ください。

注2: 過剰な力で押し付けしないでください。綿棒の柄部分で光コネクタ端面を傷つける恐れがあります。

7.2. 光ケーブルの取り扱い

光ケーブルに過度の曲げ(半径30mm未満)が加わらないように注意してください。
過度の曲げが加わった場合、光ファイバの破損や光の損失の増加など、通信に影響を与えます。

付録1. CX2100 / 200装置 概観図



(単位mm)
ACアダプタケーブル長:約1800mm

アフターサービスについて

万一装置に故障が発生した場合は、サービスセンターへご連絡ください。
ご連絡の際には、ランプの状態、およびループ試験実行結果等をお知らせください。
また、修理のために返却される際、輸送中の振動による破損を防ぐため緩衝材入りの梱包をお願い致します。

< 修理品に対するお問い合わせ先および送付先 >

〒211 8666
神奈川県川崎市中原区下沼部1753
NECテレネットワークス株式会社 リペアセンタ

TEL:044-435-1978(受付時間:8:30~17:15)(土・日・祝日を除く)
FAX:044-435-0328